

サブジェクト・インディケーション
- 主題表示におけるエリック・コーツの寄与 - 川村敬一著

第1回 1991.04.12 担当 吉田暁史氏

序文

- 1960年 E. J. Coates Subject catalogues : heading and structure
コーツ型件名目録 (Coates-style subject catalogue)
- 1962年 B T I 創刊
件名目録理論の実際展開
- 1969年 B T I 機械化プロジェクト完了
- 1973年 U N I S I S T 計画本格稼働
Unesco と F I D の共同企画
- 1977年 F I D / B S O パネル委員長就任
B S O (一般排列システム)
分類理論の実際展開

本書の内容

- 1960年から現在に至るコーツの業績を辿ったもの
 - 第1篇 コーツの件名標目理論
件名目録の作成法を中心に、カッターからコーツに至る理論的展開を辿る
 - 第2篇 B T I (件名標目理論の具体化)
件名目録における相互参照作成の実際
 - 第3篇 B S O (最新の一般分類表)
- B T I と B S O の関わり
索引と分類の関わり

序論 主題表示

主題目録の種類と特徴

- (1) 分類目録
主題の体系的編成を得意とする
相関的件名索引が必要
- (2) 件名目録
特定検索を得意とする
関連主題に導くための適切な相互参照が必要
- (3) アルファベット順分類目録
2つの折衷
件名による大項目をアルファベット順に排列
小項目のグルーピング 概ね分類の原理を適用
小項目の排列 アルファベット順索引の原理

分類目録と件名目録の様相

分類目録の課題

1. いかなる分類表を採用するか。
2. 相関索引をどのように作成するか。
蔵書の分類記号に対する件名索引

分類目録の規範

B N B (1950-1970)

- 相関索引に連鎖索引法 (chain procedure methods) を適用
- 分類記号に言葉による案内標目 (Verbal extension) を併記
- 言葉による展開

621.381958 -Digital Computers

621.381958[1]-Programming

621.381958[1]-Programming .Fortran

[1]..... 序数値が 099と 1の中間という特別な記号

件名標目の課題

1. 特殊標目の作成における作業の一貫性の保持
2. 語彙統制を含めたところの相互参照の作成

主題表示の一体性 (the unity of subject indication)

- 分類目録は補足的な索引の助けを必要とする。又、件名目録も背後に主題の関係を限定する補足的な概況一覧表 (synoptic table) が必要である。
規定された概念の体系
- 件名目録の相互参照の背後には、隠れた分類表 (concealed classification) が不可欠
- 主題表示の一体性の考え
分類と索引 一方が他方の補助なしに初代目録の究極的機能を果たしえず、また両者が概念レベルで対応することから、これらを根底において一体化して扱うべき
- シソーラス・事後結合方式
 - ・ アルファベット順のディスクリプタ・リスト
 - ・ ディスクリプタの上下関係を表すカテゴリー・リスト
- 事後結合方式の歴史
単一語 (自然語キーワード) の自在な合成

語彙統制のためのディスクリプタ・リスト作成

カテゴリー・リストの追加

コート 「一度塗りつぶした絵の中から分類がしみ出てきた」

- コート 分類目録の件名索引を件名目録の地平で体系化を進める
"Subject Catalogue : heading and structure, c1960, 1980"
複合主題の標目作成法と各種主題目録における連鎖索引法 (相互参照の索引法) の適用。語彙統制の問題には全体を通じて適宜言及

第1編 件名標目理論の展開

第1章 先駆者と探検的思考家達

件名標目の統語法 (Subject-heading syntax)

索引語の列挙順序 (citation order)、結合順序 (combination order)

カッター Chelres A. Cutter

○ 『辞書体目録規則』 "Rules for a Dictionary Catalog, c1876, 4th.ed.1904"

○ 辞書体目録規則 161条 標目の特殊記入

件名標目は「その主題を包含する類の標目からでなく、主題 [そのものの名前] から作ること」

CHOICE BETWEEN DIFFERENT SUBJECTS (RULES 161-166)

rule 161 Between general and specific

"Enter a work under its subject-heading, not under the heading of a class which includes that subject"

○ 標目の特殊記入 辞書体目録を分類目録やアルファベット順分類目録から分かつ最大の特徴

問題点 主題が名前を持っていないものや1語で表せず、句によって表される主題は、上位のクラスの標目の下に記入される。

複数の語からなる主題を標目にするには、語の列挙順序が問題になる。

Circulation of Blood

× Muvement of Fluids in Plants

Botany, Physiological (類概念からの記入)

CHOICE BETWEEN DIFFERENT NAMES (RULES 167-175)

○ rule 172 subject-word and subject

"Enter books under the word which best express their subject, whether it occurs in the title or not"

記入はそれが書名に現れるか否かにかかわらず、その主題を最も適格に表す語から作るべし

? Plants, Circulation, Mechanics

○ rule 174, 175 Compound subject-names

rule 175

"Enter a compound subject-name by its first word, inverting the phrase only when some other word is decidedly more significant or is often used alone with the same meaning as the whole name"

複合主題名 (a compound subject-name)はその最初の語から記入を作ること。ただし、他の語が明らかに重要なときや、単独で句全体と同じ意味を表すときは句を倒置せよ

問題点 何を基準にある語を明らかに重要であると断定できるのか。重要語を判断できる基準が示せていない。

rule 174 複合主題の表現法

(1) 形容詞 + 名詞 (Ancient Histroy, Capital Punishment)

A noun preceded by an adjective

(2) 形容詞的名詞 + 名詞 (Death Penalty, Flower Fertilization)

A noun preceded by another noun used like an adjective

(3) 名詞 + 前置詞 + 名詞 (Penalty of Death, Fertilization offlower)

A noun connected with another by a preposition

(4) 名詞 + and + 名詞 (Ancient and Modern)

A noun connected with another by "and"

(5)句もしくは文

A phrase or sentence

(1)の形容詞 + 名詞を倒置しない理由

名詞は多くの場合クラスを表わし、形容詞はその名詞を限定する

名詞 - 主題の名前, 形容詞 - その細区分

よって、「形容詞 + 名詞」は特殊記入の原則に合致する

問題点 rule 175の重要語の判断基準は特殊記入の原則とすりかわる

CHOICE BETWEEN DIFFERENT SUBJECTS (RULES 161-166)

o rule 164, 165 Between subject and country

rule 164

"The only satisfactory method is double entry under the local and the scientific subject"

場所の取扱い 「満足出来る唯一の方法は場所と学術主題 [名] から重出記入を作る事である。」

o rule 165

"A work treating of a general subject with special reference to a place is to be entered under the place, with merely a reference from the subject"

「一般的主題を扱った著作で特に場所の限定をするときは場所から『記入』を作り、主題からは相互参照のみを作る。」

例: " Bird and Seasons of New England "

New England, Ornithology

Ornithology, See also New England

カッターは場所は個 (Individual) を、主題は類 (Class) を指向する、と考えていた。

o まとめ

- ・カッターの特殊記入自身が想定するストックリストの中に、当該主題があるかどうか判断。
- ・問題の根源 特殊記入を直接的記入と同一視している。
- ・矛盾の表出 複合主題の標目作成において最も顕著に現れる。
- ・カッターの功績
 1. 特殊記入とはいかなるものかと問いかけたこと。
 2. 何をもちて重要語であるかの判断基準を後進に迫ったこと。

カイザー Julius O. Kaiser

o 『体系的索引法』 (Systematic Indexing) , 1911

o 知識に関する情報を表示しうるもの

具象 (Concrete) + 過程 (Process) = 陳述 (Statement)

事物 (Thing) 事物に関して言及 (Spokin of) されるもの

o 主題が過程的要素や抽象的な 1 語で表現された時の扱い

例: 養蜂 (Apiculture) 教育 (Education)

Bee Keeping

Children Instruction

o 具象的要素が二つもしくはそれ以上ある主題への対処

一方のそれを過程的要素に隠して原理を守る。

o 具象的要素が 1 語でなく形容詞 + 名詞や、名詞 + 名詞の複合形をとった場合

複合形 具象的用語 (Concrete term) そのままの順序で標目に使用

複合形は特殊であるゆえ決して倒置してはならず、自然語の順序で標目にする。

Coates C1960

「索引におけるいかなる語の結合も、2語で表されるものの間の相互作用 (Interaction)か、あるいは2番目の語で指示されるものの特定の種類 (Kind)を意味するかのいずれかである。」

○ 具象的要素

可動性 (貨幣、機械類など)

不動性 (土地、河川、地下資源など)

抽象性 (労働、情報など)

国家 (Country) 場所

○ 意味の因数分解 (Semantic factoring)

カイザーは過程的要素の一部にだけこれを適用

コーツ 「件名目録の利用者は分類によらず最初に思い浮かぶ用語から探す。この種の迂回 (意味の因数分解) をあえて行うのが分類目録である。」、換言すれば分類こそが単位概念を適切に統制できる語彙体系なのである。

Brian C. Vickery

"Classification and Indexing in Science, 3rd ed., 1975"

意味の因数分解とは、複数の意味要素で構成される用語を、性質を表す一般的ないくつかの用語に分析することである。情報検索におけるその意義は、特性を共有する事物間に存在する関連性を明らかにしうる点にある。(山田常雄『イギリス分類研究グループ (CRG)における分類理論の展開』)

○ 相互参照 (Cross reference)

関連語 (Related terms) 相互参照を主標目である具象的要素間に限定

同義語 (=)、上位の集合体 (Higher Collection <)、

下位の特殊体 (Lower Specific >)

"Theory of Subject Analysis, ed. by L. M. Chan and others"

Kaiser recognized three categories of "facets" of index terms:

(1) terms of concretes, representing things, real or imaginary

e.g., money, machines

(2) terms of processes, representing either conditions attaching to things or their actions

e.g., trade, manufacture

(3) terms of localities, representing, for the most part, countries

e.g., France, South Africa

Expressions in Kaiser's index language were called statements.

Statements consisted of sequences of terms, the syntax of which was prescribed by formula. These formulas specified sequences of terms by reference to category types. Only three citation orders were permitted

(1) a term in the concrete category followed by one in the process

e.g., Wool-Scouring

(2) a country term followed by a process term

- e.g., Brazil-Education
 (3) a concrete term followed by a country term, followed by a process term
 e.g., Nitrate-Chile-Trade

ランガナタン S. R. Ranganathan

- o 1935 『分類目録規則』
- o 1945 『辞書体目録規則』
- o C Cによる分類作業 主題分析のための分野ごとの観点であるファシットを駆使した主題の分析・合成。
 分類作業とは個々の主題を区分しながら同類のものを取りまとめること。
- o P M E S T (Personality, Matter, Energy, Space, Time)
 具象漸減 (decreasing concreteness) の原理
- o 件名標目の列挙順序 E M P S T

ファラデン J. E. L. Farradane

"A Scientific Theory of Classification and Indexing and its practical applications, 1950"

- o 帰納的方法による分類表の作成
- o 関係分析 (Relational analysis)
- o 例示 文献の調査
 ・ Literature (Concrete) Searching (Process)

Literature (Action) Searching

- o アイソレート 独自の定義を与えうる (uniquely definable) 具体的なもの、あるいは抽象的な観念を表わす単位概念
- o オペレーター 9つの関係を記号化したもの
- o アナレット アイソレートとオペレーターによって1つの主題を表現した用語のストリング

Fandamental Fallacies and New Needs in Classification, ("The Sayers Memorial Volume: Essays in Librarianship in Memory of William Charles Berwick Sayers", 1961, pp. 120-35)

山田常雄 『イギリス分類研究グループ (C R G) における分類理論の展開』

- o 科学文献の調査における分類の利用
 (Classification as Method of Search of Literature of Science)
 Science (association) Literature (acion) Searching (association)
 Classification

Science;/Literature/-Searcing;/Classification

Classification;/Searching-/Literature;/Science

Literature [;/Science] /-Searching;/Classification

- o 「ある1つの語の意味が明確に認知されるなら、それがいかに複雑であろうとも、

その語でもって索引づけを行うべきであって、複数の説明で置き換えるべきでない」(**Relational Indexing Pt.1**, 1980,) (山田常雄『イギリス分類研究グループ (CRG)における分類理論の展開』)

山田常雄『イギリス分類研究グループ (CRG)における分類理論の展開』

- ・概念間に存在する一切の関連性をあらかじめ限定することを否定している。
- ・事物それ自体を自明の出発点としている。
- ・種類関係すら1つの関連性としか認めていない。
- ・(ファラデンの提起したものは)特定の主題領域、特定のファシット、特定の階層構造においてしか事物をとらえられない演繹的分類表に対する根本的批判として重要な意味をもっている。独自の定義を与えうる対象としての単位概念並びに事物から独立したいわば構文的システムとしての関連性分析は、口述するCRG分類表に大きな影響を与えている。

第2回 1991.04.22 担当 前川和子氏

第2章 特殊記入の新たな概念

特殊性の程度

- 件名標目作成の諸段階における基本的作業
 1. 内容圧縮された主題の命名
 2. 重要語の決定
- カッター
主題のストックリスト (the stocklist of subject)
- コーツ
「特殊性に程度はない」、「ある程度が所与の主題内容に対して特殊か否か」
特殊記入の概念
 - ・ 標目が主題と同延的 (coextensive)なるもの、主題と同じ広がりを見せる標目、主題と釣り合う標目 (subject heading to measure to subject)
 - ・ 個々の文献に対してはいずれの標目が特殊であるかは、主題内容に照らして初めて断定できる。
- Coates 1953
細区分 (Subdivision)の廃止を主張
曖昧な特殊記入論、アルファベット順分類目録の落とし穴

句標目の適否

- 複合主題に釣り合う同延的記入を徹底するには、圧縮した主題内容はまず句で表現される。
- 句の短縮形 (shortened form of phrase)
句の拡大形 (extended form of phrase)
- コーツ 件名標目に句を使うのは適切でない。
 1. 句の構成語が標目においてどのように列挙されているか予測できない。
 2. 排列上の問題 排列規則が明確でない。
 3. 句には別の表現形態が可能ゆえ、当の標目がどの形を徹底しているか予測できない。

副標目による特殊記入

- コーツ 句で表現される主題に対しては副標目形 (subheaded form) が適切
- コーツ C1960 「著作はその主題を適格に表示する標目のもとに記入せよ。名前が1語で表示できない主題もしくは形容詞のあとに名詞が続く慣習的な句の主題は、2語以上の複合的標目で厳密に特殊化すべきである。このような場合、記入語 [= 主標目] は」その特殊主題に適切なあるクラスの用語になろう。これに副標目としての別な用語が続くことになる。合成された主標目と副標目の意味は曖昧さがなく自明のものでなくてはならない。
- 句の拡大形は全てが副標目形で表示可能
- 構成要素が三つ以上の主題の場合 標目の末尾に関係を示す。
 - ・ ミミズクによる害虫の退治 Owls, Pests, Control by
- 句の短縮形から拡大形への変換
- コーツの原則とは、その構成要素に可能な限り分類して副標目にする事。

第3回 担当 北 克一

第3章 カテゴリーと関係分析

語の重要性 (term significance)

"Subject Catalogues : heading and structure, 1960, 1980"

- The most significant term in a compound is the one which is most readily available to the memory of the enquirer. This, in turn, is the word which evokes the clearest mental image.
- Etymologically a "thing" is whatever one can think, that is to say whatever can be thought of as a static image. In this special sense it includes not only the names of physical object but systems and organisations of a mental kind. Images of things are simpler, more readily formed, more accessible to memory than images of actions because time does not enter into them
- With reservations to be detailed later, we can say that a word which evokes a static images is more significant than one which denotes actions or processes. A static image is produced by names of "things" and names of materials. The difference between the two from the point of view of the imagination is that a "thing" has a boundary, while a material has none. For this reason we must rate the name of material lower in significance than the name of a "thing". On the other hand, the image of material is made up of entirely static-seeming properties such as colour, hardness, smoothness, so we must rate it higher in significance than the name of an action. Thus far the following order of significance has been set up:
Thing/Material/Action
- 「重要性の公式」 (Significance Formula)
複合主題の構成要素の列挙順序決定の公式
事物 - 素材 - 動作
- カッターが提起した重要性の問題に、カイザーとランガナータンを経て、コーツが最も洗練された形で解答を示した... (中略) 換言すれば、「重要性の公式」が用語のイメージを手掛かりとする利用者の心理を踏まえたものであるばかりか、P M E S Tの最初の3カテゴリーの具体化に第一歩であった...

語の関係 (term relationships)

- 重要性の原理は分類・索引システムにおける標目作成の基盤に据えることができる。しかし、この原理だけでは必ずしも標目の列挙順序を決定できないことがある。なぜならカテゴリー分析とはそれ自体は語が持つイメージの考察であるゆえ、語の意味にある種の枠組みを設けたにすぎないからである。あるいはそれは意味の表面を撫でたにすぎないからである。実際の意味は語の関係をも分析しなければ明らかにできない。
- たとえば複合主題は同等に具象的な二つの事物から構成されることがある。そしてこれら事物の対から成る表現が、その順序によって異なる意味を表わすことがあるからだ。

例 **Conveyor Belt** **Belt of Conveyor**
 Belt Conveyor **Conveyor with Belt**

- ・ と の主題に関して、質問者は **Belt** と **Conveyor** の双方を、それ自体としては同等に重要な事物と見なしうるのである。従って、重要性の単純な比較だけでは標目の列挙順序は決定できないことになる。件名標目の列挙順序は関係分析の力を借りずして決定できない。
- ・ 自然語表現において関係は前置詞によって規定される。句の拡大形 (詳述前置詞句 **amplified prepositional pharas**) の関係語 (**relational word**) を手掛かりに意味分析を施す。

前置詞句の意味分析

○ 詳述前置詞句

名詞 + 前置詞 + 名詞

○ 自然語表現の短縮形と前置詞句への変換

形容詞 + 名詞 **Social Psychology** **Psychology of Society**

名詞 + 名詞 **Telephone Kiosk** **Kiosk of Telephone**

○ 前置詞句による拡大形の効果

- ・ 関係分析による標目の列挙順序の決定
- ・ 未確立の主題を既存の用語から成る前置詞句で命名
e. g. , **Intelligence of cephalopods** 頭足動物の知性

This is of some importance, as it suggests the possibility of a unified approach not only to compound subject phrases but also to those "unestablished" compounds to which Cutter was content to give class entry only.

○ これまでのまとめ

- ・ 自然語表現はそのままの順序では標目になりえないことがある
- ・ 標目は語の重要性と語間の意味関係を分析して初めて決定できる
- ・ 関係分析には、前置詞句の意味分析が助けになる

○ コーツにおけるカテゴリー分析と関係分析の展開のポイント

- ・ 重要性の原理が自然語の語順を覆すのはいかなる場合か
how far significance formula lead to the modification of the nature language order of the word-components
- ・ 関係分析の結果が「重要性の公式」を覆すのはいかなる場合か
how far relationships between components lead to modifications of the significance formula Thing/Material/Action

<<of>> <<for>> <<against>> <<with>> <<by>>

20の関係表と対応例に即して、個々に検討する。

関係表 (Relationship Table)

○ 類型 1 ~ 7

主標目と副標目が別個のものとして扱われる関係

対をなすカテゴリーの相互佐用を表現

統語関係 (syntactic relations)

○ 類型 8 ~ 20

主標目と副標目の結合が種類を特殊化する関係

包含関係 (inclusion relations)、類種関係 (generic relations)

○ A closer inspection of the table shows however that the only details the cataloguer is called upon to memorise are groups of exceptions to the rule that the order of components in the subject heading is the reverse of their order in the amplified relational phrase.

The exceptions are

(a) where "for" is used to distinguish homonyms (No. 14 in table)

(b) where a Part, Material, or method of Action is quoted to differentiate a particular kind of Thing (Nos. 8, 9, 10 in table)

(c) where a particular Action is distinguished by citing a subordinate Action which contributes to it (No. 12 in table)

(d) where the relation is that causation (17, 19-川村)

○ It will be noticed that categories 1-7 in table are of a totally different character from those numbered 8 to 20. 1 to 7 deal with Properties, Actions, Materials, Viewpoints, and Parts in relation to one another and to Things. Categories 8 to 20 deal, not with Actions, Parts, Materials as such, but with Things, differentiated by reference to Parts, Materials, Principles of Action, Function, Material or Energy consumed, and Causative Factors.

「20の関係表」の例外

1) 事物の種類がその性質によって特殊化される関係

例 Linear Accelerators (線型加速器)

標目 Accelerators, Linear ?

2) 動作の種類がその性質によって特殊化される関係

例 First Aid (応急手当て)

標目 First, Aid ?

3) 分詞をはさむ関係

例 Paper insulated Cables (絶縁紙によるケーブルの絶縁処理)

標目 Cables, Paper ?

Cables, Paperinsulated ?

4) 主題が動作主 (Agent) と被動作主 (Patient) のカテゴリーから成る複合形

公式 Patient - Action - Agent

被動作主 - 動作 - 動作主

列挙公式の展開

○ 「重要性の公式」の展開

- ・ Thing - Part - Material - Action - Property
事物 - 部分 - 素材 - 動作 - 性質
- ・ Patient - Action - Agent
被動作主 - 動作 - 動作主

Thing(Patient) - Part - Material - Action - Property-Agent

○ 複雑な主題の例示

Building, Walls, Concrete, Reinforced, Steel, Corrsion, Measurement,

Thing	Part	Material	Property	Material	Process	Action	
事物	部分	素材	性質	素材	過程	動作	
建物	壁	コンクリート	耐水補強した	鋼材	腐食	測定	
		Object					Verb

Resistanc detectors

Thing

事物

分極抵抗器

Subject

主題分析法

コーツ型件名目録における標目の作成

第1段階

句による主題の命名

その文献が全体として何について述べているか

標準公式に則した用語のカテゴリー化で統制

第2段階

前置詞句の意味分析による列挙順序の決定

分析されるのは前置詞で関係づけられた句

Coates の Subject Catalogue では存在しない節

第4回 1991.06.14(金) 担当 田村俊明

第4章 句の短縮形と場所の取り扱い

名詞 + 名詞

複合形の類型 (p.41を参照)

統語関係 syntactic relations

・主標目と副標目が別個のものとして扱われる関係。

包含関係 inclusion relations (または種類関係 generic relations)

・主標目と副標目の結合が種類を特殊化する関係。

狭義の複合語は後者を指す。

例 Conveyor Belt と Belt Conveyor

標目はどちらも Conveyor, Belt となる。

語の結合を見ただけでは正確な意味の把握は不可能となる。

句の短縮形を標目として使用する方が良いのでは？

コーツの見解～句標目は採用しない。

理由 質問者は句の構成語が標目においてどのような順序になっているか予測しかねる。

短縮形は自然語に対応がないまま適応された場合、大方の質問者は思い浮かべるのが困難である。

基本的な索引単位は 1 語であり、焦点となるその 1 語に対して質問者の注意を引くいかなる操作も有益である。

効果 標目形の予測機能

焦点となる主標目のもとに関連主題をグルーピングできる。

「一般原則として二つの名詞から成る全ての句は分離するのがよい。」

形容詞 + 名詞

標目作成においては以下の手順をふむ。

形容詞の名詞化

前置詞句への拡大

「20の関係表」に照合

標目の決定

例 1 **Comparative Anatomy**

Comparison + Anatomy

Comparison of Anatomy

事物と動作の相互作用を規定 類型 1 に該当

Anatomy, Comparison

Anatomy, Comparative (副標目の形容詞形) ではないのか？

例 2 ~ 5 で検討

(以下に挙げてある例に関して不明瞭な部分が多いため検討が必要。)

例 2 **Nocturnal Birds**

Night + Birds (*nocturnal 自体の名詞形はない)

Birds active (or acting) at Night **Birds of Night** ?

事物の性質 類型 6 に該当

Night, Birds

副標目の形容詞形 ~ **Birds, Nocturnal**

例 3 **Mental Hygiene**

Mind + Hygiene

Hygiene of Mind

事物と動作の関係 類型 1 に該当

Mind, Hygiene

この種のトピックの名詞形には通常 "Psyche" が使用される。

従って標目は "Psyche, Hygiene" が適切か。

副標目の形容詞形 ~ Hygiene, Mental

例 4 Subconscious Mind

Subconsciousness + Mind

Subconsciousness of Mind

事物と部分の関係 類型 5 に該当

Mind, Subconsciousness

Subconscious 自体が潜在意識という意味を持つ名詞として普及している。

従って標目は "Subconscious" が適切か。

副標目の形容詞形 ~ Mind, Subconscious

例 5 First Aid

First + Aid

Aid of First ?

前置詞句を対応させることはほとんど困難である。

コーツの結論 ~ 形容詞のままであってはならないという理由はないと思われる。

形容詞 + 名詞の短縮形に関する 2 つの有益な指針

標目になる場合、名詞 + 名詞のそれより倒置されがちである。

副標目は形容詞形のままであっても特に問題はない。

このことは概念分析および語愧統制をないがしろにしてよいことを意味するのではなく、統制を前提にしたうえで自然語表現に絶えず気を配るべきことを付記したにすぎない。

例 6 Molecular Structure

Molecules + Structure

Structure of Molecules

事物と観点の関係 類型 7 に該当

Molecules, Structure

短縮形の倒置 Structure, Molecular

複合主題における場所とトピック

主標目をトピック名にするか地名にするかの判断基準

場所をそれが関係する事物や動作の単なる特性と見なす場合

トピックー場所

場所とそれ自体を事物と見なし、複合主題の残りの要素を単なる部分と見なす場合

場所ートピック

コーツのアプローチ

複合主題における非場所的要素の本性 (トピックそのものに備わる固有の性格)

例 British Lathe Practice

German Lathe Practice

「旋盤実務」という主題は場所による限定をさほど受けない。

British Tax System

German Tax System

「税制度」という主題は上記の例に比べて場所による限定を受ける。

場所の限定を受ける主題

同地的共同体のイメージとその強弱による主題分野の順位づけ

地理学および生物学的現象

歴史および社会現象

言語学および文学

芸術

哲学および宗教

技術

自然科学的諸現象

下位に行くに従って場所による限定は薄れていく。

上位の部分の標目 場所、トピック（生物学のあるものを除く。）

下位の部分の標目 トピック、場所

どこに境界線を引くか？ 3と4の間

例外 生物における類と種の違い

France, Animals

Greece, Animals ~ 類

France, Nightingales

Greece, Nightingales ~ 種

個々の種については、集合的な類よりも場所の限定が薄れる。

コートによる場所優先の判断基準

トピックに備わる同地的共同体の性格

トピックに備わる集合的性格

対象の固定性

「コミュニケーションの発達、思想や文化の交流や調和を考えると、地名から入る主題のカテゴリーを制限するのが賢明である。」

第5回 1991.07.03(水) 担当 蔭山久子

第2篇 British Technology Index

第1章 背景と成立過程

アメリカ ウィルソン社の索引誌

A S T I (応用化学技術索引) Applied Science and Technology Index

Industrial Arts Index(1913) ASTI(1958-)

Business Periodicals Index(1958)

イギリス L A (Library Association) の索引誌

B H I (英国人文学索引) British Humanities Index

Subject Index to Periodicals(1915) BHI(1962-)

C T I (最新技術索引) Current Technology Index

B T I (1962) CTI(1981-)

1950-1960年代初頭の英国の図書館界

公共図書館は産業社会の中で地域の情報センターになりたいと願っていた。
個人と共に地域企業にもサービスを提供する。
専門図書館は抄録誌のタイムラグを埋める技術索引誌を必要としていた。

B T I に先行する技術索引誌

Technica Article Index(1952) Cleaver-Hume 社

IOTA(Index of Technica Articles)(1957-1958) IOTA サービス社

上記 2 誌の失敗に対する専門家の見解

1. 英国の技術情報（雑誌記事）に対する需要が少ないため。また収録雑誌の絶対数が少なすぎる。
2. 索引記入が適切でないため。産業の主要部門に従った主題のグループ排列をとっていた。（コーツや L A）

L A による 2 誌に替わる新しい索引誌についての提案(1959)

1. 技術索引の継続はいまもって最重要の懸案である。
2. 索引誌を企画する機関は営利追求を主目的にしてはならない。
3. 技術の全分野を網羅する必要はないし、手におえない。
4. 索引誌は利用者のことを考えて設計すること。
5. 新しい索引誌は Subject Index to Periodicals の補足となるべく英国の科学・技術の雑誌記事を収録し、月刊誌であること。
6. 年間累積版が出るならなおよい。

提案を受けた L A に調査委員会（T P I 小委員会）を発足。（1959.10）

二つの角度から予備調査

1. 索引誌の体系を何にするか。 アルファベット順件名索引、年間累積版
2. 収録対象 英国の348種の技術雑誌

L A の事業として新索引誌の刊行決定(1961.5)

誌名 - B T I 編集長 - コーツ

コーツの設計基準

1. 収録率（coverage） - 医学と農学を除く技術および応用科学の全分野（工学・化学工学・製造過程の 3 部門） 収録雑誌は英国の400種
2. 速報性（promptness あるいは currency） - タイム・ラグは最大 7 週間
3. 検索能力（retrieving power） - コーツ型件名目録 著者索引なし

B T I の発行 1962.2

B T I に対する批判とそれに対するコーツの反論

1. 収録誌を英国の400種に限定したのでは用をなさない。
（英国発行であっても提供情報は英国の技術とは限らない。技術分野のコア雑誌を慎重に選んでいる。）
2. 索引は抄録に劣る。

(抄録と索引は本来的に機能が異なる。抄録は索引より内容の濃い情報を提供する。従って利用者に精読を要求する。索引は主題の有無を確かめる道しるべとしてある。)

第2章 標目の統語法

単一記入の原則

B T I は標目の単一記入を原則とする。すなわち意味あるストリングに対応する同延的標目はただ一つである。副標目からの検索については連鎖手続による相互参照を作成する。コーツは主題を標目で特殊化するのに副標目形を採用した。(p.29-30)

多記入方式(標目の分離記入・重出記入 - 順序索引・統制規則をもつ順序索引 - ストリングの回転方式)を採らなかった。

B T I 関係表

コーツが1960年に表した「20の関係表」は分野を限定しない一般件名目録のための試案であった。技術および応用科学のためにB T I は特殊関係表を作る。

B T I の標目において優先されるカテゴリーは、統語関係においては目的・最終生産物・全体である(動作や影響を被るもの)。包含関係においては、種類を特殊化される対象または特定の機能である。列挙公式はO V Sの受動構文になる。包含関係を含めると「応用 - 過程」(Application-Process)が基本になる。

単一記入の例外

1. 「全体 - 部分」関係の標目(類型5) - - 全体と部分は同等の重要性をもち、部分の応用は特定の全体に限定されないから。重出記入を行う。
2. 研究・教育機関や特殊な技法で有名な建造物の固有名詞。固有名詞とそれを使わない標目からの重出記入を行う。

事物とそれへの動作(類型10)。被動作主すなわち特定の応用対象のないもの。この場合の標目の列挙順序はS Vの能動構文になる。

標目と相互参照

「アルミニウムの道路輸送」Transport of Aluminium by Road(mataha Roads Transport of Aluminium)

主題の構成要素 アルミニウム、輸送、道路

Aluminium, Transport, Roads

標目 副標目 副標目

副標目の相互参照形

Roads, Transport, Aluminium. See Aluminium, Transport, Roads

Transport, Aluminium. See Aluminium, Transport

CBA See ABC

BA See AB

「連結自動車による溶解させたアルミニウムの輸送」 Transport of Molten Aluminium by Articulated Motor Vehicle

Aluminium, Molten, Transport, Motor Vehicles, Articulated
主標目 副標目 " " "

副標目の相互参照

Articulated Motor Vehicles, Transport, Molten aluminium. See Aluminium, Molten, Transport, Motor vehicles, Articulated Motor Vehicles, Articulated, Transport, Molten aluminium. See Aluminium, Molten, Transport, Motor vehicles, Articulated Transport, Molten aluminium. See Aluminium, Molten, Transport Molten Aluminium. See Aluminium, Molten
EDCBA See ABCDE
DECBA See ABCDE
CBA See ABC
BA See AB

種類関係を特殊化するために例外的に順列が適用される相互参照を、コーツは修正連鎖手続き (modified chain procedure) と呼んでいる。
場所の取り扱い

技術分野の主題は場所の限定を受けにくいですが、下記の場合は受ける。しかし場所は主標目になることはない。必ず後方に置かれる。

1. 特定の国で実施されている技法、あるいは特定の国の生産品目を包括的に説明した記事には、国名 (もしくは大陸名) からの参照を作成する。

Pulp, Mechanical, Production, Sweden

Sweden
See

Pulp, Mechanical, Production, Sweden

Mechanical Pulp. See Pulp, Mechanical

2. 個々の製造工場またはその製品を扱った記事には通常は場所の限定ならびに場所からの参照を作成しないが、特別に例外を設ける。

例外 場所の限定を受ける建造物

Housing (住宅建設)、Flat, Maisonettes (共同住宅)、Churches, Monasteries and similar buildings (教会、修道院などの宗教建築物)、Government and municipal buildings (政府および地方自治体の建築物) Town planning topics (都市計画)、Mines (鉱山および鉱業場)、Pipelines (輸送管路)、Power stations (including Nuclear and Hydrpelectric) (発電所)、Dams (ダム)、Coastal and Flood control works, Drainage, Water engineering (沿岸および治水調節、排水設備、水利工学)、Roads (道路)、Buildings connected with

transport (輸送関連建築物)

コーツは索引の標目から「場所」を除外してしまうのが徹底的解決法だとしたが、B T I はこれを退けた。コーツの件名目録における場所カテゴリーの取扱は p.52, 53参照。

準普遍的特性(**the nearly universal properties**)の取り扱い

技術の応用対象ならびに過程をあらわす語には、文献中には自明のものとして明記されないが当然意味を補足して判断しなければならないような特性をもつ。

welding (金属の接合) **fusion welding** (溶接 - 熔融接合)

tyres (タイヤ) **rubber tyres** (ゴムのタイヤ)

computers (コンピュータ) **digital computers** (デジタル・コンピュータ)

特に金属が関与する特性は注意が必要である。

コーツは、標目作成時、標目の簡潔性と経済性のため、準普遍的特性用語を省略することにした。しかし技術の進歩に伴い新たな特性が加わるのでいつの時点かで特殊化する必要が生ずる。いつ行い、どこまで遡及するかの判断は難しい。

Welding, Cold (冷間溶接)

Welding, Fusion (熔融接合)